

令和元年度 第2回 社会教育委員会議 会議録

■日時

令和元年7月1日(月)午後1時30分から3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- | | | | |
|---------|---------|--------|------------|
| ・清水 眞理子 | ・上村 卓三 | ・白畑 丈子 | ・高鍋 房美 |
| ・吉川 博文 | ・尾崎 麻由美 | ・谷 譲二 | ・堀内 保寛 |
| ・村上 栄 | ・瓦 俊夫 | ・網野 俊賢 | (欠席：田中 智美) |

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

吉川委員長

- 本日7月1日で1年の半分が経過したことになる。年を取ると年が経つのが早いと感じる。子どもたちはあまり早いと感じないのはときめきが多い、発見が多いからだそうだ。我々は日常的なことで過ぎていくのが早いと感じる。
- 6月は総会など行事が多かった。本日はよろしくお願ひします。

2 教育長あいさつ

川村教育長

- 令和2回目の社会教育委員会。様々な行事にご協力いただいていることに感謝申し上げます。
- 学校の安全では、生活安全、交通安全、災害安全の3つの部分があり、いずれもいつでも起こりえると思っておかなければいけない。大津市の事故や川崎市の事件、吹田市で警察官が銃を奪われるというような事件が起こっており、子どもたちの見守り活動をいろいろなところをお願いしている。464人と非常に多くの方にスクールヘルパーとして登録いただいている。一層の見守りを願う。
- 学校を核とした地域づくり、コミュニティスクールを拡大していこうと考えており、内部で協議している段階ではあるが、精華南中学校、精華西中学校でも運営できるようにと学校運営協議会を作る話し合いを進めている。立ち上げの段階ではみなさんの団体をお願いすることもあると思うが、よろしくお願ひしたい。
- 町長部局でも総務部で協働のまちづくり推進室をつくり、地域づくりを推進している。みなさまのお力添えをお願いする。

3 議事

(1) 管外研修の振り返りについて

① 6月14日(金)山城地方社会教育委員連絡協議会総会

【むくのきセンター】司会：高鍋副委員長、議長：清水委員

清水委員

- 総会の議長ということで緊張した。役員交代があったので、今後も情報交換をしていきたい。
- スマホ・ケータイの研修会では、子どもたちの関わる世界の奥深さを知った。グループLINEでちょっとしたことで人を傷つけたりすることがある。大人も気を付けなければいけない。学校でもご父兄にもお話ししたい。

上村委員

- スマホ・ケータイについて、アプリを使うと海外の情報会社に個人情報が漏れてしまうというようなこともあったと聞く。グローバルな問題となっている。

網野委員

- 府や山城地方の総会に出席し、社会教育委員の活動は重層的にされていることがわかり、良かった。

瓦委員

- スマホの研修会について、塾の送り迎えがきっかけにしても、今では小学生もスマホを持ち、いろいろなことに使っている。グループLINEでいじめにつながる、個人情報をアップするなどの問題が考えられる。また、若い教員についても同じような問題に気を付けていきたい。

上村委員

- Twitterでトランプ大統領の発言を知ったり、世界的なG20のことがわかったりもする。自分たちの情報を取捨選択して使うことの大切さを子どもたちに伝えたい。薬物乱用に関する研修会では山城南保健所がキーステーションになっていただけている。

堀内委員

- 薬物乱用の研修が印象的だった。子どもたちに注意していきたい。

谷委員

- スマホを“持たされている”。使いこなせていない状況。薬物乱用について、芸能人の問題と思っていたが、中学生や小学生までとの話があったので、気をつけていかなければいけないと思った。

高鍋副委員長

- 携帯電話はなくてもいいと思っていたが、今はスマホを便利に使わせてもらっている。スマホは社会問題も起こっているので、理解して若い人に注意するぐらいの勉強は必要。薬物研修は、昔は手にすることが難しかったが、今は使うと痩せるとか勉強できると言われたり、コーヒーに入れられるという事例も聞いた。人を信じないといけませんが、気をつけないといけない。

吉川委員長

- 自分はいわゆる“ガラケー”しか持っておらず劣等感がある。情報は手に入れられやすいが、裏にある危なさもある。子どもたちに知らせたい。薬物依存について、昔現場で、シンナーを気持ちはやめたいが、抜け出せないという子どもを対応したことがある。みんなで見守っていくしかない。

② 6月23日（日）やましろ未来っ子みんなでHUGフォーラム

高鍋副委員長

- 井手町まなび教室「きらきらランド」の実践発表では、地域コミュニティと住民の協力でいい結果を出されているという報告だった。また、薬物乱用防止の研修会があった。

白畑委員

- 精華台小学校がPTA活動で表彰を受けた。

③ 6月28日（金）京都府社会教育委員連絡協議会 総会

谷委員

- 表彰されていた社会教育委員が何したらいいかわからないと言われていた。奥が深い。米澤先生が学校、家庭、地域が連携して進んでいかなければいけない。

網野委員

- 非常にたくさんの方が社会教育に関わっておられる。向日市の取組発表で、地域学校協働活動についてよくわかった。地域の方が多角的に、知恵を持って関わっ

ておられる。

白畑委員

- 向日市の発表について、ボランティアを集めるのは大変だが、子どもにチラシを渡して父兄が出やすいようにしてもらったり、長寿会に来てもらったり、いろいろな段階で情報網ができています。精華町でも行っているが、動きが違うと思った。

高鍋副委員長

- 向日市の発表で、酒鬼薔薇事件の後だが、学校を閉ざすのではなく、地域のみんなですら守ろうという方向になった。こういうことが広がればいいなと思った。

(2) 令和元年度全国社会教育研究大会 兼 近畿地区社会教育研究大会

10月24日（木）～25日（金）、神戸市ポートピアホテルにて開催。

- 詳細は次回の委員会で確認する。ふれあい号の使用の関係で、現時点での出欠を事務局で確認。

(3) 今年度の視察研修等について

- 今年度の全国大会の発表を参考にし、地域学校協働活動をテーマに考えながら、視察先を選考する。

(4) その他

- 子ども議会について、7月25日（木）に開催。5小学校6年生のクラス代表14名と議長1名が参加。
- 図書館資料の不法投棄について、令和元年5月以降、京都府南部の複数箇所で見つかった図書館資料999冊に、本町図書館の資料も64冊が含まれ、被害のあった図書館と連携を図り対応している。本町の図書館資料64冊に貸出中の資料はなく、貸出処理を行わずに図書館外に持ち出されたものと推測される。
- 子ども祭りについて、11月17日（日）けいはんなプラザで、昨年同様、せいか祭りと同日開催。6月21日に第1回実行委員会開催。
- 東京2020オリンピック聖火リレーについて、オリンピック開催の機運を高めるため、来年3月26日から開幕の7月24日までの121日間、全国47都道府県857市区町村で、東京2020オリンピック聖火リレーが実施される。精華町での実施予定日は令和2年5月27日（水）。京都府実行委員会が7月1日から府のHPにおいてランナーを公募。
- 町民体育大会について、「せいか健康・スポーツ交流フェスティバル」としてリニューアル。
- 体育協会、スポーツ推進委員、教育委員会が連携し、開催に向けて協議調整を図っている。
- 規則改正について。社会体育施設の管理運営規則の一部を改正した。受付開始期間の変更や減免基準、還付条件等の整理。

清水委員

- 町民体育大会がせいか健康・スポーツ交流フェスティバルにリニューアルする、内容は協議中とのことだが、社会教育委員としての関わりは？

事務局

- 今までは委員としていろいろとお世話になっていた。まずは地区委員の負担を軽減する。体育協会はゲートボールなど、スポーツ審議員、健康365は町など、役割分担を行う。内容は具体的には決まっていないが、今後ご協力をお願いすることもある。

吉川委員長

- 図書館資料の不法投棄について、これは無断に持ち出されたものか？

事務局

- そうである。これまで通り館内の30分に1回の見回りを行ったり、新たに「貸出手続きは済まされましたか？」とのポスター掲示を行っている。今回見つかったのは64冊。本自体は10年ほど前から不明のものもある。
- 年に1回点検をしており、何年もないことの確認はしていた。年間100～200冊不明がある。どの図書館でも一定ある。一定年が経てば除籍する。
- 持出禁止用防犯タグを入れる声もいただいたが、約1000万円かかる。

4. 研修（社会教育委員の活動等発表 第1回）

(1) 吉川委員長「活動等報告：地域（社会）について」

- 自治会役員を8年間担い、3月で卒業、今は寺と神社の総代をしている。地域社会の力が求められ、自然災害時の地域の共助が叫ばれる中で、地域の現状について考えた。
- 社会教育の柱として、①生涯学習の振興、②家庭の教育力の向上、③地域社会教育の教育力の向上、④人権教育の推進の4点がある。
- 戦後の社会状況として、①高度経済成長、②高度情報化、③グローバル化、④向都離村、⑤核家族化、⑥人口増→少子高齢化の6点があげられる。
- 22世紀は『なつかしい未来』の到来と言われる（前大阪大学総長：鷲田清一氏）。世界的には急激な人口増加、天然資源の枯渇などの問題があり、日本でも経済成長の鈍化・格差・人口減少等がみられる。生物の営みを人に任せているのに自立していると勘違いしている。一緒に住まないといけない、経済的に厳しい時代となる。
- 「地域社会」とは、同じ地域に住み、共通の文化利害関係の中で生活し、相互扶助と団結の意識と行動様式を持つコミュニティと考える。
- 「地域」の範囲は、①市町村、②小学校区、③自治会、④集合住宅、⑤隣近所と分けてみると、自治会より小さい範囲と考えている。
- 「地域」の現状の変化として、①地域意識の希薄化と孤立化の傾向、②地域内

の人間関係や世代間交流が限定、③地域を基礎にした団体・組織の消滅と弱体化、④「役」や「ボランティア」等のなり手の減少があげられる。

●地域社会の教育力の向上のために（＝生涯学習の地域づくり）、以下のことがあげられる。

- ① 地域の取組や事業（イベント・祭・社寺関係等）の継続と伝統文化の継承
- ② 地域の団体・組織の活動内容（地域への誇りと愛着を生む事業等）の検討
- ③ 地域内の交流や世代間交流の取組の推進と居場所づくり
- ④ 子供の貧困と学力格差への対応（子供食堂、寺子屋等）
- ⑤ 「学び体験教室」や「地域学校協働活動」による地域の活性化
- ⑥ 活動の拠点づくりとコーディネーター等の人材の確保と育成
- ⑦ 教育委員会と首長部局（福祉課・子育て支援課等）との連携

●自分の住んでいるところに誇りが持てたら、愛着を持てたら、地域意識も変わる。そういう仕掛けが大切である。地域を意識するのは、地域外へ出た時。また、地域は「この人がやるなら」という核になる人がいることが必要だと思う。

(2) 白畑委員「精華女性の会について」

- 現在5支部で121人。相楽連合婦人会、京都府連合婦人会に所属。その中でも会員数が多い方である。
- 活動は教育委員会の共催で「女性講座」を年4回実施している。内容は歴史、健康などで、女性の会が企画立案している。そこから毎年1人ぐらい入会する。
- 行政に協力し、男女共同参画、環境、ごみ、子育てなどの勉強会、高齢者のお弁当づくり年2回、地域の子供の見守りなど行い、活動は多種にわたっている。いろいろ勉強できるが、その分難しい。
- 昔は川西婦人会、山田荘婦人会などがあったが、一旦解散し、今は精華町としてひとつである。会費は年400円でずっと変わっていない。
- 京都府内の人たちとの交流も多々ある。いろいろな意見を聞いたり勉強したり、お話しでき、楽しく活動している。それを広げたい。

(3) 網野委員「社会教育 1つの方向性」

- 社会教育委員として1年生の人間が考えたこと、精華町の住民として新人の私が考えたこと、この2つの側面から考えてみたものをお話しする。
- 人生100年時代というのが現実味を帯びてきた高齢化社会において、学校教育後の生涯教育期間というのが大幅に伸びている。人生100年時代になっても学校教育の期間は約20年と人生50年時代から変わらず、その後の時間が2～3倍になっている。学校教育が終わってから学習をすることの重要性が非常に大きくなっていると感じる。
- 社会の変化としては、過疎化、これによる地域の担い手の減少、また、グローカリゼーション（グローバルイゼーションとローカリゼーションの合成語）

があげられる。

- 次に、京都府教育委員会の資料を見ると、やはり中心は学校教育、そしてその学校教育を支えていくチームのかかわりであるというまとめ方がされている。「子どもを包み込む持続可能な地域」ということで、学校運営協議会や地域学校協働活動が書かれている。
- 先日、第3向陽小学校の地域学校協働活動の取り組みについて報告を聞いたが、地域の人たちを非常によく巻き込んでいると拝見した。それはそれでいいと思うが、社会教育にはもう一つの役割があるのではないか。それは学校教育を終えた市民は、教育、あるいは学ぶということから離れてはいけないということである。生涯にわたって勉強していくということ、言ってみれば「賢明な市民を持続的に生み出す仕組み」というのが、社会教育の役割ではないか。
- 「賢明な市民」とは、一つは「継続的な学習によって生涯に涉って必要な知識を蓄える人たち」であり、例えば健康や介護、安心・安全などについて学ぶ。もう一つは「地域社会に貢献する活動を通して自分を充実させる人たち」であり、例えばコミュニティスクールや子ども食堂、交通安全などに参画する。
- 「賢明な市民」への期待を考えると、例えば健康志向があげられる。健康について非常に勉強している人たちは、自分の体を大事にし、予防的に医者にもかかり、当然医療費の軽減につながっていくだろう。他にも地域への関心があって、地域にかかわる人が増えれば、行政が何もかもやらなければいけないという行政から脱却できるだろう。
- 精華町もだが、地域社会というのは地域資源を持っている。地域資源とは、まずはヒト。先ほどもご報告があったが、地域団体、NPOのリーダー、ボランティア、学校関係者などがこの精華町にもおられる。さらに、モノとしては、町有施設、公共施設などがある。それから、カネとして、行政には予算の限界があるので、場合によっては世の中から資金を集めるという活動が必要である。
- そして、さらに大事なものは情報であろう。知恵を生かしてうまく生きていく、うまく地域をやっていくためには情報が必要であり、私はむしろ情報というのは知恵という言葉に置きかえられると考える。我々は知恵を集めてうまく組み合わせ活用していく、それが地域資源の活用になっていく。
- 中央教育審議会が「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」という答申を最近出している。そこで強調しているのは、「ひとづくり、つながりづくり、地域づくり」である。それを階層的に組み直すと、つながりづくりの重要性を明確に認識する。つながりを作れる人材を育成し、その人が地域の資源を認識し、つないでいくことによって、地域社会をつくるというのを目指しつつあるのでないか。
- したがって、キーワードは「つなぐ」。ヒトとヒトをつなぐ、モノとヒトをつなぐ、ヒトとヒトをつなぐ、それから、カネとヒトをつなぐ、情報とヒトをつなぐ、あるいは知恵とヒトをつなぐということである。

- 社会教育の新しい担い手として「つなぐ達人」がこれから非常に大事になってくる。いろいろな領域のスペシャリスト（領域の達人）をつなぐ人材、広域的なつなぎの達人である。例えば、写真愛好家のグループと認知症のサポーターをつなげ、どういう認知症の予防につながるようなプログラムがあるかを考えると、両方のことを知っていてうまくつなぐ人が必要である。
- 「つなぐ達人」を養成して、そういう人たちに活動の場を設けるということが、一つの社会教育の側面なのではないか。

●次回発表担当は、村上委員、清水委員、上村委員、高鍋副委員長に決定。

●次回日程は、令和元年8月30日（金）13時30分～。

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 発表ありがとうございました。ひとつのこともいろいろな角度で考えることが大切である。この企画がいい方向に向いていきますように。

5 閉会